

「農場HACCPと畜産GAPを考えるシンポジウム」を開催しました。

去る平成29年8月9日（木）、長野県と共催し、農林水産省生産局畜産部畜産振興課課長補佐 丹菊将貴先生、一般財団法人日本GAP協会 基準認証部 朝日光久先生をお招きして、「農場HACCPと畜産GAPを考えるシンポジウム」を開催しました。



なお参加者は85名であり関心の高さが伺えました。

丹菊先生からは「日本版畜産GAPの推進について」と題しご講演いただき、国の立場から日本版畜産GAP（JGAP家畜・畜産物）の概要と認証体制の道筋や推進方策、GAPチャレンジシステムについて、お話しをいただきました。



朝日先生からは、「持続可能な畜産のためのJGAP認証～日本版畜産GAPの概要」と題しご講演いただき、「JGAP認証制度」「JGAP家畜・畜産物基準書の概要」「農場HACCP」と「JGAP家畜・畜産物」の関連（比較や差分審査）についてのご説明をいただきました。

朝日先生からは、「持続可能な畜産のためのJGAP認証～日本版畜産GAPの概要」と題しご講演



朝日先生からは、「持続可能な畜産のためのJGAP認証～日本版畜産GAPの概要」と題しご講演

農場HACCPの推進のみならず、JGAPに対する積極的な対応も必要と感じ、大変参考になりました。



出席者からの声

- 農場HACCP認証取得農場として、今後やるべきことがある程度理解できた。
- 農場HACCPを推進するにしても、JGAPを推進するにしても、県並びに関係機関の協力が不可欠であることを感じた。
- 農場HACCPとJGAPがどの様に推進されていくのか今後の動向に注目したい。
- 農場HACCPの普及推進は重要と考えるが、JGAPと比較した場合どちらを優先して取り組むべきなのか戸惑いはある。
- 東京オリンピック・パラリンピックにおける食材の確保の面からみると、農場HACCP取得はハードルが高いので、JGAP取得で十分と思われる。

